厚労省「国民の皆様の声」、内閣府経済財政運営担当への意見送信

（２０２０年４月２７日）

新型コロナウイルスに感染する恐怖と向き合いながら、懸命に集中・救急治療に携わる医療従事者の悲痛な声が連日、伝えられています(後掲）。

いつ感染するかしれない一市民として政府に、至急、次のような措置を講じるよう求めます。いつまでも未来形（「検討する」「指示した」）ではなく、「現場に届けた」「給付した」と過去形で発表すべき。

　①マスク、ゴーグル、防護服、手袋等を直ちに医療現場に届け、感染予防に万全を期すこと

　➁看護師退職者に財政措置を講じたうえで、応援復帰を呼びかけ、現役スタッフの休養を確保すること

　③新型コロナ関連の医療従事者に対する危険手当（実質は特別勤務手当）を大幅に引き上げること

　（注）新型コロナの治療に携わるスタッフへの危険手当は多い所でも1日3000円程度と言われています。しかし、フランス（感染拡大地域）は18万円、韓国は医師5万円、看護師3万円といわれ、日本はあまりに低い水準です。家族への感染を避けるため、ホテル等に宿泊する医療スタッフの宿泊費、食費、交通費を補償する意味からも、都道府県任せにせず、国の支援でせめて韓国並みに増額するよう要望します。

〔参考〕

＊「新型コロナの国内での感染拡大に伴い、医療機関で複数の感染が確認された事例が今月20日

　時点で、少なくとも19都道府県の54施設で発生し、患者や医師らの感染が783人に上ったこ

とが26日、日本看護協会の調査でわかった。協会はマスクなど防護具不足が深刻で、十分な感

染防止対策がとられていないと訴え、医療従事者への支援を呼び掛けている。」

（『共同通信』2020年3月26日）

＊「看護師は『防護服を着るときは、つらくて涙が出る。精神が壊れているかもしれない』と胸

の内を吐露。感染の恐怖から、一睡もできずに夜勤に臨むこともあり『私たちの命の保証は誰

がしてくれるのか』と訴えた。唯一の原動力は、回復していく患者の姿を見ることという。」

（『福井新聞』2020年4月26日）